

学校保健

(題字は元北海道学校保健会会長 吉田 信)

発行

公益財団法人北海道学校保健会

札幌市中央区大通西 6 丁目

北海道医師会館 5 F

☎ (011) 221-5240



児童生徒の健やかな心身の発達をめざして

北海道教育庁学校教育局健康・体育課長

公益財団法人北海道学校保健会 理事

国 安 隆

皆様におかれましては、日頃から学校保健の充実に多大な御尽力をいただき、心から感謝を申し上げます。また、子どもたちの健康の保持増進に必要な学校医や、保健教育の授業での外部講師等に御協力いただいている医療関係者の方々に深く敬意を表します。

さて、近年の社会環境や生活環境の急激な変化の影響等により、肥満・痩身、生活習慣の乱れ、メンタルヘルスの問題、アレルギー疾患、薬物乱用など、子どもたちが抱える健康課題は複雑化・多様化している状況となっております。このため、学校医、学校歯科医、学校薬剤師をはじめとする専門家の皆様と引き続き連携を図るとともに、健康の保持増進にとどまらず、今日の子どもたちの抱える様々な問題に対応する上でも、教育界と医療界が協力して取り組むことは大変重要であると考えています。

道教委では、本年 1 月に「公立学校児童等の健康状態に関する調査」の結果を公表しました。本調査結果から、本道の子どもたちに

ついて、視力やむし歯は過去と比較すると改善傾向が見られるものの、「裸眼視力 1.0 未満の者」の割合は、小学校で 3 割強、中学校では 5 割程度、高等学校では 6 割程度、「むし歯の者」の割合は、小学校で 4 割強、中学校では 3 割台半ば、高等学校では 5 割程度となっています。道教委では、依然として課題が継続しているものと受け止めており、関係の皆様とともに解決に取り組む必要があると考えています。どうか、皆様の変わらぬ御理解と御協力をお願いします。

各学校におかれては、本調査結果も活用し、自校の子どもたちの健康に関する状況を把握・分析いただき、学校医、学校歯科医、学校薬剤師をはじめとする専門家と連携しながら健康教育の充実に図り、将来の予測が困難な時代の中でも、子どもたちが生涯を通して心身ともに健康な生活を送ることができるための「健康リテラシー」の育成に御尽力いただきますよう、よろしくお願いします。

目 次

○巻頭言 「児童生徒の健やかな心身の発達をめざして」

北海道教育庁学校教育局健康・体育課長／公益財団法人北海道学校保健会理事 国 安 隆 …… 1

○実践発表「自分を大切に、歯と口を健康に～歯科保健活動を通して～」

札幌市立新琴似北小学校 …… 2

○実践発表「教職員・保護者・関係機関と連携して進める保健教育

～歯と口の健康づくりの取組から～」 旭川市立東町小学校 養護教諭 加 納 亜梨沙 …… 4

○令和 7 年度公益財団法人北海道学校保健会事業計画（概要） …… 7

○令和 7 年度公益財団法人北海道学校保健会収支予算（概要） …… 8

令和6年度
北海道学校歯科保健優良校表彰受賞校

自分を大切に、 歯と口を健康に

～歯科保健活動を通して～

札幌市立新琴似北小学校

1 はじめに

本校は札幌市北区にあり、防風林が近く、自然に恵まれ、交通の便も良い立地にある。特色ある教育として、新琴似北プラスバンドの活動や地域学校協働推進事業（旧サッポロサタデースクール）の実施など、地域に開かれた学校、地域の教育力を生かした学習を重点の一つとし、保護者・地域の協力を得ながら、社会全体で子どもたちの成長を支えることを目指している。

学校教育目標は「豊かな人間性を身につけ、たくましく生き抜く子どもの育成～進んで学び、創造する子ども（知）・やさしい心を持ち、協力する子ども（徳）・健康で、意志の強い子ども（体）」である。教育目標達成のため、子どもが自ら心と体の健康づくりを図る取り組みの一つとして歯科保健教育の充実に力を入れている。

平成21年度から学校歯科医の御協力の下、歯科保健活動をスタートし、平成23年度には公益社団法人日本歯科医会の推進する「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業」の指定校となり歯科保健活動を実施してきた。児童483名と教職員、保護者、地域が力を合わせて行う歯科保健活動の取り組みや成果と課題について紹介する。

2 本校の取組

(1) 発達段階に応じた歯科保健指導

1年生にはカミカミセンサーを使用して、食育の観点からよく噛んで食べることの大切さと、そのために歯を大事にする必要性について、歯科保健の観点から栄養教諭と養護教諭が合同で授業を行っている。しっかり噛むことが、栄養吸

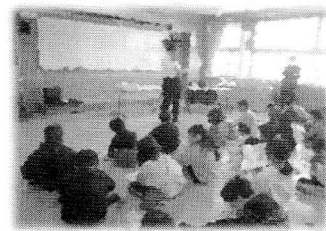


収に役立つことや体を育てることを学び、子どもたちはよく噛むことを意識するようになっている。

2年生と6年生は学

校歯科医の岩寺医師と岩寺小児歯科医院の歯科衛生士による歯の染め出しと歯みがき指導を行っている。磨いているつもりが磨けていない場所を知り、どうすればきれいに磨けるかを学んでいる。

3年生と5年生は学校歯科医に歯科保健指導を1時間行っただけではない。事前に学校歯科医に質問したいことについて児童アンケート



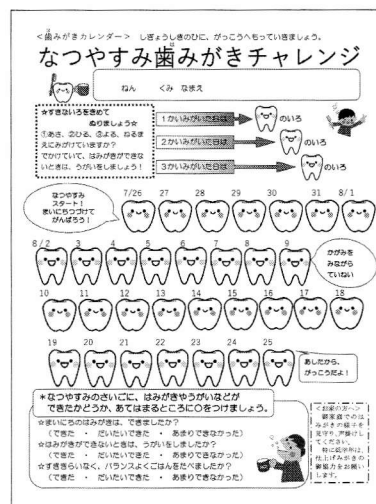
をとり、授業の中で回答していただく。3年生には歯の生え変わりの時期における歯の健康について、5年生には歯肉について詳しく教えていただき、「あいうべ体操」の実践による口腔の成長を促している。

4年生は全国小学生歯みがき大会に参加している。その中でデンタルフロスの使用の大切さを学び、自分たちが今からできることについて考える時間になっている。歯みがき大会参加の3か月後に実施するアンケートでは、毎年デンタルフロスの使用者数の増加がみられる。

このように、1年生から6年生までの系統的な指導により、歯と口の知識の積み上げと、歯みがき習慣の定着やみがく技術の向上を図っている。

(2) 歯みがきカレンダー

自宅での歯みがき習慣の定着を目的とし、夏季・冬季休業中は歯みがきカレンダーに取り組んでいる。その日にみがいた回数によって色を塗り分け、取組の最終日には休み中の生活習慣も振り返り、生活習慣と歯と口の健康の関連についても意識できるようにしている。



(3) 歯科保健教育研修会開催



保護者と教職員を対象に、学校歯科医を講師にお招きして、歯科保健教育についての研修会を行っている。コロナ禍で開催できな

った年もあったが、令和6年度はフッ化物洗口に関する話をしていただき、教職員の歯科保健に関する意識の向上を図ることができた。

(4) 年2回の歯科健診

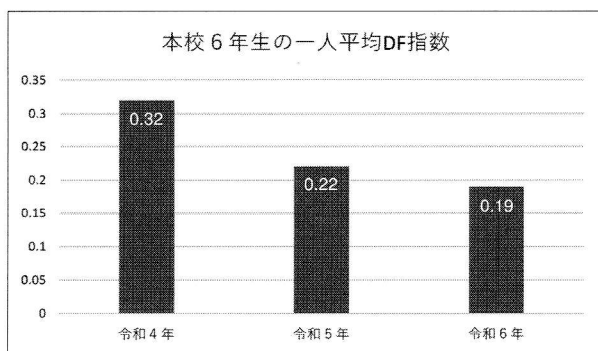
5月と11月に歯科健診を行っている。11月の歯科健診の前には、保護者にアンケート調査を行い、全家庭から子どもの歯と口の健康について気になることや、歯みがきの習慣などについて回答をいただく。そのアンケートを踏まえて歯科健診を行い、学校歯科医と歯科衛生士から保護者の質問への返答もアンケート用紙に記入していただき、全家庭に返却するようにしている。保護者と学校医が直接つながることで、協力して子どもの歯と口の健康を守ろうという保護者の意識の向上につながっている。

(5) 保健便りや掲示物の作成

歯みがきカレンダーや歯科健診の集計結果、各学年の歯科保健活動について、保健便りや掲示物を活用して報告している。歯科保健活動に関する情報や、児童の歯と口の健康状態の実態を家庭に知らせることで、活動一つ一つの成果と課題を学校、保護者、地域が共有し、歯と口の健康意識を高められるようにしている。

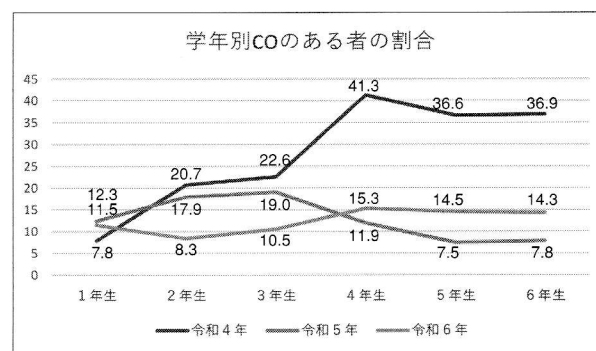
3 成果と課題

令和6年度の歯科保健活動の重点目標は「子どもが自分の歯と口の健康状態を把握し、主体的に健康管理に取り組む姿勢を育むことで、家庭生活での習慣を定着させる」ことであった。今年度のみならず、長年の継続した取組により、本校6年生の一人当たりのむし歯の保有数は年々減少傾向となり、むし歯の保有率は全学年全国平均を下回



っていた。また、本校の学年別CO（要観察歯：むし歯の初期段階）を有する者の割合は、コロナ禍では増加したものの、令和5年度からは10%程度の低い状態を維持している。歯みがきカレンダーでは、1日の歯みがきの回数が1日1回という子どもが減少し、1日3回の子どもの増加した。

しかし、GO（歯周疾患要観察者：初期の歯肉炎）の割合は年々減少傾向ではあるものの、低学年と比較し高学年の数値が20%程度の高い状況であった。低学年は保護者が仕上げ磨きをしてくれているが、高学年は仕上げ磨きをしてもらう子が減少することも影響していることが推察される。子ども自身が歯や歯茎の正しい磨き方を身に付けられるように、継続的な指導が今後も必要である。



歯科健診後は歯科受診が必要な家庭にお知らせを出しているが、その通知を受けて受診したと報告した家庭は40%程度であった。残り60%の家庭が受診していないのか、受診したという報告がされていないのかは把握されていないが、秋に実施される2回目の歯科健診でも、治療が必要と診断される子どもが含まれていることは課題である。小学生の歯科受診には保護者の協力が不可欠なため、年に2回の歯科健診のタイミングで、保護者への協力を促す必要がある。また、COやGOの段階で歯みがきを丁寧に行うことで、自らむし歯や歯肉炎を予防しようとする意識付けを子どもたちに行っていききたい。

4 まとめ

前述の課題を解決するため、令和7年度の歯科保健目標は「家庭や地域と連携して歯と口の健康教育を行い、子どもが主体的に心身の健康について考え、健康増進に努める姿勢を育てる」こととした。歯科保健活動の前後に自身の健康状態を知り、健康課題に気が付くことで、課題解決に向けて何をすべきかを考えることができるように活動していく。

歯と口の健康は、子どもたち自身が自分を大切に思う気持ちがあってこそ育まれるものだと考える。そのために学校は、子どもたちの自己肯定感も同時に育み高めていけるよう取り組みながら、今後も学校歯科医や家庭とのつながりを大切に、歯科保健活動を継続させていきたい。

実践発表

「教職員・保護者・関係機関と連携して進める保健教育」

～歯と口の健康づくりの取組から～

旭川市立東町小学校

沙梨亞 納加 諭教護養

1 はじめに

本校は、旭川市の東部に位置し、創立70周年を迎えた全校児童数189名の小規模校である。学校教育目標「やさしく かしく たくましく」の具現化に向け、学校保健では「自分の心身の健康を自分で管理できる指導の充実」を重点としている。

令和4年度から本校の健康課題の一つである「歯と口の健康づくり」に取り組んできた。コロナ禍でできる指導は限られていたが、「歯と口の健康に関心をもち、歯と口の健康づくりに主体的に取り組むことができる児童の育成」を目指して実践した取組の一部を紹介する。

月	取組内容	対象	1年目	2年目	連携・協働
4	歯と口の健康づくりにかかわる指導計画全体共有	教職員		○	
6	全国小学生歯みがき大会参加	4年生	○		公明財団法人ライオン歯科衛生研究所
6	「歯と口の健康」に関わる本の紹介と貸し出し	全校児童		○	司書教諭・図書担当教諭・保護者
6	「歯科検診結果通知方法」相談・改善	全校児童		○	各学級歯科医
6	歯科検診結果共有	各担任	○		
7	「歯をみがく」授業加法（Microsoft Teams）	1・2年生	○		花王グループカスタマー・ナビゲーター(株)
7・8	歯科検診結果連携全体共有	教職員		○	
7・8	夏休み歯みがきカレンダー-取組	全校児童	○		保護者
9	夏休み歯みがきカレンダー-返却	全校児童		○	担任
9	教務の日 歯の外傷時の対応	教職員・担任		○	担任
11	教育祭(学校祭)の利用を促進するための啓発	児童・保護者等	○		事務協議会
11	「いの歯の日」に関するクイズ動画放送	全校児童	○	○	担任・児童保健委員会
11	問巻と歯と口の健康にかかわる指導	4年生	○		担任・栄養教諭・保護者
12	元氣アッププロジェクト(巻紙・メディア)	全校児童	○	○	児童保健委員会
12・1	冬休み歯みがきカレンダー-取組	全校児童	○		保護者
2	冬休み歯みがきカレンダー-返却	全校児童	○		担任
3	歯と歯肉色とICTを活用したブラッシング指導	5年生	○		担任・歯科科長先生・食料科長先生



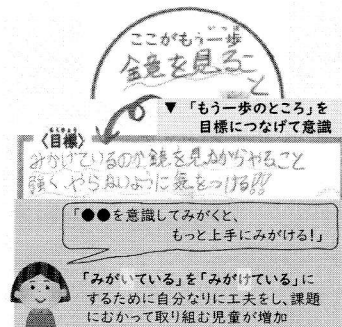
2 本校の取組について

(1) 保護者と連携した菌みがきカレンダーの取組

「自分の歯と口の健康課題を見つめ、課題の解決に向けての行動実践ができるようになること」を意図して歯みがきカレンダーを作成し、夏と冬の長期休業中に全学年を対象に実施している。

まず、取組の初日に「今できていること」「もう一歩のところ」を振り返らせた上で、「実践が可能な具体的な目標」を記述させている。

次に、「みがく時に意識してほしいこと」「習慣付けてほしいこと」を1日おきにお題として盛り込んでいる。例えば「みがき忘れがないように、順番を決め



てみがこうデー」をはじめ、「お家の人に仕上げみがきをお願いしてみようデー」など保護者に関わってもらいたいという意図で設定しているお題もある。

お題の一つである「お口の中をじっくり観察デー」は、休みの前半と後半に設定しており、みがき終わりに鏡を見て、歯肉の状態やみがき残し

部分がないかを気付かせるための手立てとしている。



12/28(木) 苗みがきの終わりにかみのみをみで観察しよう①

☐ 黒っぽい色がかっている苗は？ あった・なかった

☐ 苗ごきの色？ うすいピンク、赤、くらいむらさき

☐ 苗ごう(よこが)のこっているところが？ あった・なかった

写真 石まぐさ  に、みがきのこしがあった



【児童の振り返りから】
28日のチェックの日にみがきのこしを発見したので、冬休み中に最初に奥歯をみがいて忘れないようにクセをつけた。1/7のチェックでは、みがき残しが見つからなかったので効果を感じた。これからもみがき残しがないように気をつけていきたい。

取組当初

は「みがき残しがある＝よくない」と捉え、一度カレンダーに記入をしても消して提出する児童も少なくなかった。しかし、「どこにみがき残しがあるかに気付くということは、みがき方の工夫や上達のチャンス」と指導を続けることで、みがき残し部分の発見をマイナスに捉えず、自分のみがき方の振り返りの機会や、改善に向け工夫してみがいていこうとする児童の増加につなげている。

歯みがきの実践の場は家庭であり、保護者のサポートが児童の歯と口の健康づくりの大きな役割を果たすため、取組の最終日には、保護者に取組の様子やアドバイスのコメントを依頼している。学校と保護者が児童の励みや自信につなげるために協力して支援をしていくという効果だけではなく、児童の取組だけでは見えない成果や課題がみえる機会にもなっている。

提出されたカレンダーについては、歯科健診の結果や、前回の取組状況を参考に、できているこ

とは褒め、課題については取り組みそうな具体的な小さなステップを提案するなど、個別指導の機会と捉え、一人一人にコメントを書いて返却をしている。

未提出者も複数みられるが、未提出者の多くは「歯と口の健康」に課題を抱えている傾向にあるため、児童から直接歯みがきの様子の聞き取りを行った上で上手にみがくコツや励ましを伝え、個々の課題に応じた保健指導を行っている。

(2) 担任・栄養教諭と連携した歯と間食の授業

学ぶ意欲を高めるための工夫

- ◆Googleフォームで事前アンケートを実施し、結果を授業に反映
- ◆それぞれの専門性を生かした指導
- ◆事後指導として自分が決めた「取り組みそうなこと」を3日間チャレンジ

6月に「全国小学生歯みがき大会」に参加している4年生を対象に、歯みがき以外に歯を大切にするための方法を学ぶ機会として実施している。

「自分事」として捉える手立ての一つとして、Googleフォーム等で事前アンケートを行い、既習事項を普段の歯みがきで取り入れることができているか、生活習慣と歯の健康の関わりはどうか、間食習慣はどうかなど実態を把握し、授業に反映させることを意識している。

導入は、養護教諭から事前アンケートや歯みがきカレンダー、歯科健診結果から見てきた成果と課題を伝え、展開部分は栄養教諭が事前アンケートから把握した該当学級で食べられていることが多いおやつを題材に取り上げ、歯みがき以外の歯を大切にするための方法の一つとして、間食のとり方について指導を行った。身近な題材のため児童の興味関心が高く、また、実際に食べているおやつの砂糖量を栄養教諭が提示したことで見直す必要感をもたせることにつながった。最後のまとめ部分は、歯を大切にするためにはどんなおやつのとり方をしたらよいかということ、児童

【歯を大切にするためのおやつのとり方】

- ・量を決めて食べる。
(小皿に出したり、〇個と決めたりする)
- ・食べる時間帯や回数を考える。
- ・砂糖の多いおやつは食べすぎない。
- ・不足しがちな栄養を意識してとる。



から担任に伝えることで学びをアウトプットしてもらい、

児童から出た言葉で担任がまとめを行った。

授業後は、学習内容を担任に学級通信で家庭に発信してもらい、保護者にも協力を依頼して、授

業時に決めた自分のめあて「3日間チャレンジ」に取り組んだ。それぞれの課題に合わせてチャレンジしており「量」や「種類」を意識する子、「栄養」に着目する子と様々であったが、振り返りの記述からも、今までのおやつの食べ方を見直し、望ましいとり方を考える機会となったことを感じ取ることができた。

(3) 担任・歯科衛生士等と連携した「歯垢染色液」「ICT」を活用したブラッシング指導

学ぶ意欲を高めるための工夫

- ◆視覚的な「気づき」を促すために、ICTと歯垢染色液を活用
ICT⇒iPad・ミライシード「オクリンク」・PPT動画
- ◆それぞれの専門性を生かした指導
- ◆一方的に教えるのではなく、児童に学ぶ手段を選択させる
⇒主体的な学び・行動実践につながるように

「歯並びやみがき方の癖などからみがき残しが起こりやすい場所に気付くこと」「自分の歯と口の状態や課題に合わせた歯みがきの仕方について考え、工夫して実践する意識を高めること」を目的として担任、歯科助手の保護者、歯科衛生士と連携をして5年生を対象に授業を行った。

まず、学ぶ意欲を高める工夫として、視覚的な「気づき」を促すために、歯垢染色液とICT(パワーポイント・Googleクラスルーム・オクリンク)を活用した。染め出しの流れは、パワーポイントを用いて確認し、みがき残しが多くなりがちな部分のみがき方や、上手にみがくコツなどを歯科衛生士から教わった。

実際に歯垢を染め出した際には、みがき残し部分を確認できるように各自のタブレットを活用し、口腔内の写真を撮影した。「朝歯みがきをしたのにこんなに歯垢が残っている」と、みがいているつもりで、みがけていないことに気が付いたり、「上の歯よりも、下の歯の方にみがき残しがある」など自分のみがき方の特徴や課題に気付いたりすることができていた。

みがき残し部分をブラッシングで落とす活動の際には、児童一人一人、「歯と口の状態」「課題」「みがく技術」が異なるため、一方的に教えるのではなく、主体的な活動となるように3つの選択肢を提示した。①「学んだことを活用しながら、鏡を見て自分なりに工夫をしてみがく」、②「各部位のみがき方のコツ動画を視聴しながらみがく」、③「歯科衛生士等にアドバイスをもらって

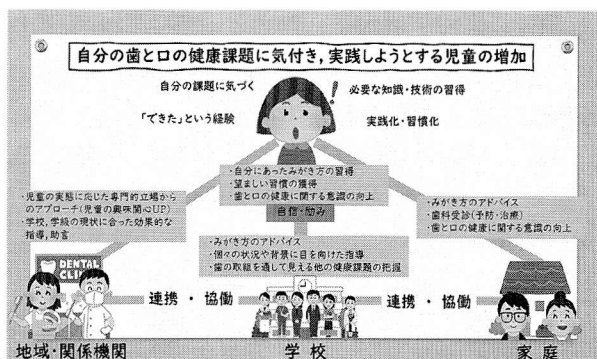
みがく」の中から、自分の実態に合わせて選択をすることで、集中して丁寧にブラッシングをする様子がみられた。

各自の染め出し前やブラッシング後の写真、気付きやみがき方の工夫については、授業支援ソフトのオクリンクで提出をさせた。オクリンクに提出されたものは、児童同士で共有することも可能であるが、今回の授業では児童の心情に配慮して、児童同士では見ることができない設定とした。それぞれの「みがいたをみがけた」にするための工夫や気付きを、担任がコメントを添えながら全体に紹介し、学びを共有した。

3 成果と課題

(1) 成果

「自分の歯と口の健康課題に気付き、解決のために必要な行動がわかる・とれる」児童の増加



歯みがきカレンダーの取組では、取組当初は目標に「毎日みがく」「きれいにみがく」と記入する児童が多くみられたが、自分のみがき残し部分や、みがく時の癖を含めた課題に気が付き、具体的な目標を立てて取り組む児童が増加した。朝の歯みがき習慣が定着していなかったが、少しずつみがける日が増え、1日も欠かさずにみがけるようになった子。むしろ歯だらけの状態から、治療を頑張り、定期健診に行くことが習慣になった子。児童により課題が異なるため、成果は様々だが、意識や行動の変化を感じる機会がたくさんあり、歯科健診結果に大きく結びついている児童もいる。

保護者からも「今のみがき方で、自分ができているところ、もう一步のところが明確になったことで、意欲をもって取り組むことができた」というコメントをはじめ、「子どもも親も歯に対する意識が変わった」など児童と一緒に課題に向かっ

て取り組む様子がうかがえる記述が増加し、予防が大切という意識の向上につながったと考えている。

(2) 課題

他の健康課題（睡眠・メディア使用時間等）との関連

歯科健診結果と、校内で実施している各アンケート結果を関連付けてみると、歯垢や歯肉の状態に所見がある児童は、就寝時刻が遅い傾向にある。さらに、就寝時刻が遅い児童は、メディアの使用時間が長い傾向にあり、また起床時刻も遅く、本校においては、朝の歯みがき習慣とも関わりが出ている児童も少なくない。より充実した歯と口の健康づくりを推進していく上で、他の健康課題と関連付けた指導も必要である。

4 おわりに

「歯みがきをする」とよいことは分かっているけど、できないのはなぜだろう」「みがいているけど、みがけていないのはなぜだろう」を児童・保護者と一緒に考えながら「歯と口の健康に関心をもつ児童」「主体的に健康づくりに取り組む児童」を育みたいという思いで「できることから始めよう」と2年間取り組んできた。

健康教育を推進していく上で、養護教諭だけでできることは限られているが、児童の成長や健康を願い、力を貸してくださる方はたくさんいる。教職員・保護者・関係機関それぞれが、強みや専門性を生かし「子どもたちのために」と関わってくださったおかげで、取組を進めていくことが出来た。

歯と口の健康状態をはじめ、メディア使用時間、睡眠など生活に関わる部分は個人差(家庭差)が大きい。そのため、個々の状況や背景にも目を向けた実態に応じた個別指導や、様々な角度からのアプローチも必要に思う。また、多面的・継続的に取組の評価を行いながら工夫・改善を行っていく必要もある。

今後も、教職員・保護者・関係機関と連携を図りながら、歯と口の健康づくりの取組をはじめ「ここからだ」を大切にできる児童の育成を目指していきたい。

令和7年度 公益財団法人 北海道学校保健会事業計画（概要）

第1 専門医健診推進事業

昭和36年度から、医療機関に恵まれない地域の児童生徒の健康の保持増進を目的として、道及び市町村が経費を負担し児童生徒巡回診察事業を行ってきたが、62年度から、当会が形を変えて継続することとなり現在に至っている。

児童生徒の学校での健康診断において専門医（眼科・耳鼻咽喉科）の確保が困難な教育委員会に対し、北海道教育委員会、北海道医師会、北海道眼科医会・北海道耳鼻咽喉科医会の協力を得て専門医の紹介を行い、児童生徒の健康保持増進を図る。

専門医の確保が困難な地域の、児童生徒の健康の増進を図る上で、この事業の担う役割は大きくなっている。

＜今年度実施予定町村＞

（眼科健診）

喜茂別町・苫前町・初山別村・利尻富士町
礼文町・利尻町・津別町・湧別町・別海町
9町村

（耳鼻咽喉科健診）

石狩市・苫前町・羽幌町・喜茂別町・天塩町
湧別町・猿払村・浜頓別町・枝幸町・幌延町
10市町村

第2 研究啓発事業

学校保健活動の充実を図り、学校・家庭・地域社会が連携し、課題解決に向け研究会を開催し、調査研究

1 第72回北海道学校保健・安全研究大会 釧路大会の開催

各関係機関と連携して主催し、第72回北海道学校保健・安全研究大会釧路大会の充実に努める。

2 学校歯科保健研究会・学校保健講演会の開催

学校保健の推進充実に図るため、北海道歯科医師会と共催で、「学校歯科保健大会」を、北海道薬剤師会と共催で講演会を隔年で開催している。

第3 普及発展事業

1 広報活動事業

本道の学校保健の充実発展を図るため、会報「学校保健」を年3回発行し、当会の活動内容の周知及び各種学校保健活動を紹介する。

＜発行予定＞

126号	6月30日
127号	9月30日
128号	1月31日

2 学校保健関係図書の紹介・斡旋、資料収集 配布事業

学校保健関係専門図書等の紹介及び斡旋並びに学校保健資料の収集配布を行う。

第4 顕彰奨励事業

1 学校保健功労者表彰

本道の学校保健及び学校安全の振興に功労のあった個人並びに学校保健団体を表彰し、本道の学校保健の進展に寄与する。

第5 教育支援事業

1 保健指導用資料の作成

保健指導で活用できる資料を作成し、希望する学校へ無償で提供する。

【対象】各種学校、教育関係者、医療関係者等

研究大会のご案内

第72回北海道学校保健・安全研究大会

○日 時 令和7年10月26日(日)
○開催地 釧路市
○会 場 釧路市生涯学習センター
まなぼつと幣舞

令和7年度全国学校保健・安全研究大会

○日 時 令和7年11月20日(木)・21日(金)
○開催地 神奈川県横浜市
○会 場 横浜武道館、
パシフィコ横浜ノース

令和7年度 公益財団法人 北海道学校保健会 収支予算(概要)

単位：千円

科 目	予算額	摘 要
【事業活動収支の部】		
事業活動収入		
①基本財産運用収入	5,574	
基本財産利息収入	5,574	社債、定期預金
②事業収入	1,260	
受託事業収入	200	日学保委託事業
受取負担金収入	540	会報
	520	功労者表彰
③雑収入	4	
受取利息収入	1	普通預金利息
雑収入	3	原稿料
事業活動収入	6,838	
事業活動支出		
①事業費支出	3,666	
給料手当	1,187	給料手当
福利厚生費	194	社会保険料
旅費交通費	30	全道研究大会等
	16	専門医健診打合せ
通信運搬費	100	文書送料、郵券
消耗品費	10	事業活動消耗品
印刷製本費	700	会報
委託料	300	研究大会
賃借料	367	事務所借上、清掃料
諸謝金	18	会報原稿謝金
会議費	17	専門医健診打合せ
報償費	527	功労者表彰楯代金
	200	専門医健診助成
②管理費	3,172	
委託料	400	会計事務所経費等

科 目	予算額	摘 要
給料手当	1,027	給料手当
福利厚生費	167	社会保険料
会議費	7	役員会等
旅費交通費	190	役員会等
通信運搬費	270	文書送料、電話料金等
消耗品費	20	事務用品消耗品
印刷製本費	30	封筒印刷等、コピー代
賃借料	318	事務所借上、清掃料
租税公課	70	法人道民・市民税
支払負担金	640	日学保拠出金等
雑 費	33	その他
事業活動支出計	6,838	
事業活動収支差額	0	
【投資活動収支の部】		
投資活動収入		
投資活動収入計	0	
投資活動支出		
投資活動支出計	0	
投資活動収支差額	0	
【財務活動収支の部】		
財務活動収入		
財務活動収入計	0	
財務活動支出		
財務活動支出計	0	
財務活動収支差額	0	
【予備費支出】		
当期収支差額	0	
前期収支差額	4,139	
次期繰越収支差額	2,092	

※給料、福利厚生、賃借料については、事業費および管理費の双方から割合に応じて支出

応援ありがとうございます!!

◆岩田地崎建設株式会社

◆株式会社アインファーマシーズ

毎年、寄付をいただいております。



***** お詫びと訂正 *****

会報「学校保健」第125号8頁【研究協議第3部会・提言2】の提言者名が間違っておりました。この場をかりてお詫びを申し上げ、訂正させていただきます。

【誤】愛宕中学校 校長 濱中 昌志



【正】神楽岡小学校 養護教諭 中村 双葉